

● まちづくり

1 連続立体交差による交通環境の改善

問合せ先 都市政策課

交通量の多い道路と鉄道が交差している踏切は大変混雑します。JR長崎本線連続立体交差事業では、この交通渋滞の原因となっている鉄道を高架化することにより、4つの踏切（幸町踏切、宝町踏切、梁川橋踏切、竹岩橋踏切）を除却し、交通渋滞の緩和や東西市街地の一体化による地域の活性化を図りました。



○事業の概要

- ・事業費：約529億円
- ・事業経過：事業着手…平成21年度
仮線切替…平成27年度
高架切替、新駅舎開業…令和2年3月
- ・除却踏切：4箇所

○事業実施前の課題

- ・踏切により市街地東西の円滑な交通が妨げられ、交通混雑が生じていました。
- ・鉄道により市街地が分断され、駅周辺の一体的な土地利用が阻害されていました。
- ・長崎駅西側には有効利用されていない広大な低・未利用地が存在していました。

○連続立体交差事業の効果

- ・踏切による交通渋滞や踏切事故がなくなります。
- ・鉄道で分断されていた市街地の一体化が可能となります。
- ・高架下の空間を有効に活用できます。
- ・交通渋滞の解消により、CO₂の排出量を削減できます。



【除却前の梁川橋踏切の状況】



【整備後の状況】

2 都市における街路事業

問合せ先 道路建設課

市街地の活性化や都市のコンパクト化を推進し、都市内の交通円滑化や歩行者等の安全で快適な歩行空間を確保するため街路事業に取り組みます。

● 都市計画道路 池田沖田線（大村市）

国道 34 号及び国道 444 号の渋滞緩和及び歩行者等の安全な歩行空間を確保、現在整備中の新幹線車両基地へのアクセス確保を目的に整備を行っています。



3 「長崎市中央部・臨海地域」の都市再生

問合せ先 都市政策課

国土交通省による「都市・居住環境整備重点地域」の指定を受けた『長崎市中央部・臨海地域』において、長崎市と県で策定した「都市・居住環境整備基本計画」に基づき都市の再生を図ります。広域交通拠点の整備を図り、その効果を最大限に発揮させ、国内や東アジアからの交流人口を拡大し、その効果を長崎市のみならず離島を含む県全体にも波及させることを目指します。

また、令和2年9月「都市再生緊急整備地域」の指定を受けた『長崎中央地域』内では、民間の都市開発の支援に取り組んでいきます。

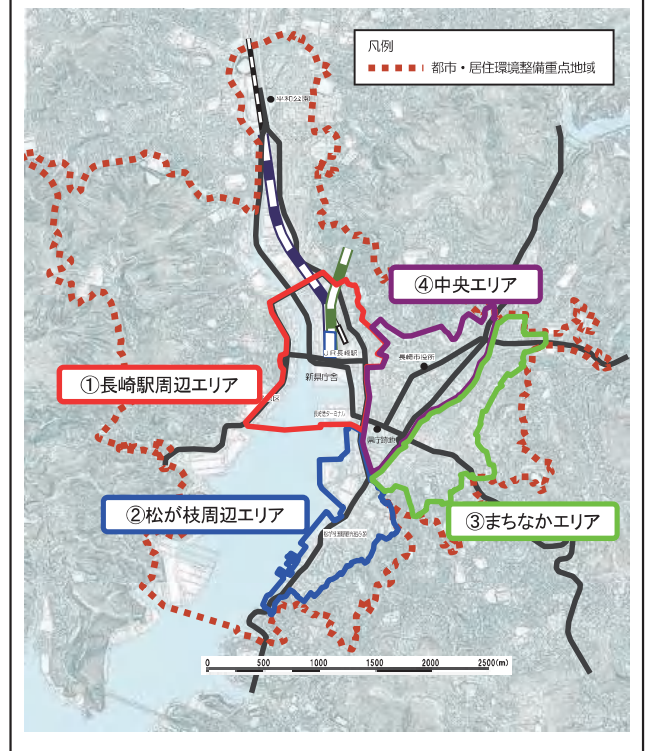
目標 ①都市の魅力の強化 ②回遊性の充実 ③国際ゲートウェイ機能の再構築

平和と文化の国際交流拠点都市
長崎の再生

交流人口の拡大

地域の活力の再生

都市再生の対象区域図と4つの重点エリア

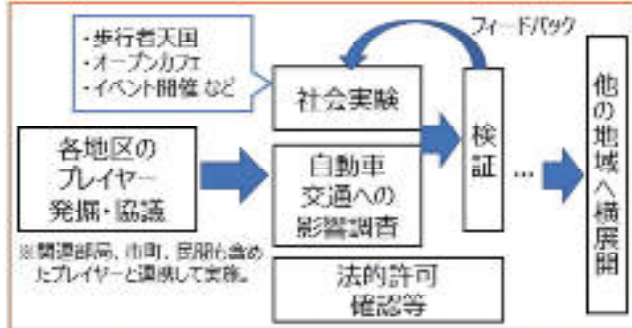


4 ウォーカブルなまちづくり

問合せ先 都市政策課

車を使わずに、徒歩・自転車・公共交通機関を中心とした、ウォーカブルなまちづくりを行うことで、日々の暮らしにおいて身体活動量を増加させ、県民の健康に寄与するまちづくりを目指します。

○令和3年度から取組みを推進



居心地が良く歩きたくなるまちなかへ

5 長崎らしい景観の創出

問合せ先 都市政策課

長崎の自然、歴史、文化的背景から、他の地域には見られない独特の景観を保全・創出するため、地域住民や市町が主体となって取り組む景観まちづくりへの技術的・財政的な支援を行うほか、景観に配慮した公共事業により良好な景観形成を先導します。

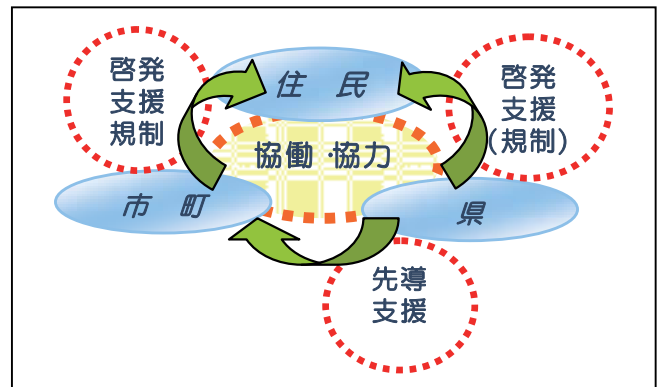
[主な施策]

広域景観形成推進事業

市町をまたがる広域エリア等において、市町、住民団体等と連携し総合的な景観形成を行います。

活動サポート事業

住民と市町が協働して継続的に取り組む景観まちづくり活動等を支援します。



アドバイザー派遣の様子

景観資産登録制度

個性的で魅力ある地域景観の核となっている「まちなみ等」「建造物等」「樹木」を登録し、広く周知します。また、登録した景観資産の保全・活用事業を市町と共同で支援します。

アドバイザー派遣制度

住民や市町、県が行う美しい景観形成を目指した地域づくりや施設整備等に対し、専門家を派遣して、技術的支援を行います。

公共デザイン推進制度

公共事業のうち、地域景観への影響が大きいものについて、専門家によるデザイン支援により、地域の魅力ある景観形成を先導し、市町や民間への波及を図ります。

大規模建造物等の規制・誘導

地域景観に影響を与える可能性が高い大規模な建築物・工作物や開発行為等について、景観法に基づく届出制度を活用し、規制・誘導を行います。



公共デザイン推進制度活用事例
(口之津港ターミナルビル)